

パンチフリー初体験

賞品はさくらんぼ。
今年も開催された山形大会
では日本フットO初登場とな
るパンチフリーコントロール
が登場した。
初夏の山形はオリエンテ
リングパラダイス。

さくらんぼ争奪

山形オリエンテリング2日間大会 2004
2004年6月19日(土)-20日(日)
山形県山辺町 県民の森



パンチが早い! スプリント

早い、とにかく早い。

6月19日(土)山形二日間大会1
日目、スプリント競技において、国内
初の「パンチフリーコントロール」が
登場しました。

ユニットについている板に近づく
だけで(Ver.3.02以上の)カードが反応
し、かなりのスピードでパンチを行
うことができます。何せ通過しただけ
でパンチされるので、世界がまるで違
ってきます。ユニットでパンチするた
めに一度停止する、という動作が無い
ので、その前提で集中して地図読みを
しておかないとずいぶん差が付くだ
ろうと思います。

これを使い慣れてくると、ずいぶん
オリエンテリングの様相が変わるの
ではないか、と自分程度のオリエン
テアでも容易に予想できます。

自分はというと、パンチングの余り

の速さに調子に乗りすぎて二つもベ
ナになってしまいました。自分のほかに
も(特にパンチングフィニッシュで)
パンチが抜けている人がちらほら見
られました。二つもパンチせずに通過
したのは明らかに自分の落ち度なの
ですが、「約1m以内を通過するとパンチ
される」(羽鳥さん)とはいえ、その辺
の距離の見積もりをのんびり甘く見
てしまうのが人間の性とも言えなく
も無いので、このあたり対策をし
っかりしておかないと思わぬベナ・
ロスを誘発する可能性があります。

因みに、ちゃんとしっかりカードの
ディスプレイにフィードバックされ
るのでその辺はご安心ください。

とにかくこの感動は一度体験して
みないと分からないと思います。今
後、国内のいくつかの大会で登場
すると思いますので、是非チャレンジ
! 運営者にとってはパンチング
フィニッシュに使用するだけでも
意味があるので、各大会の運営
者は一度検討してみてください。
フィニッシュ付近のみの利用を
前提とした料金設定もありうる、

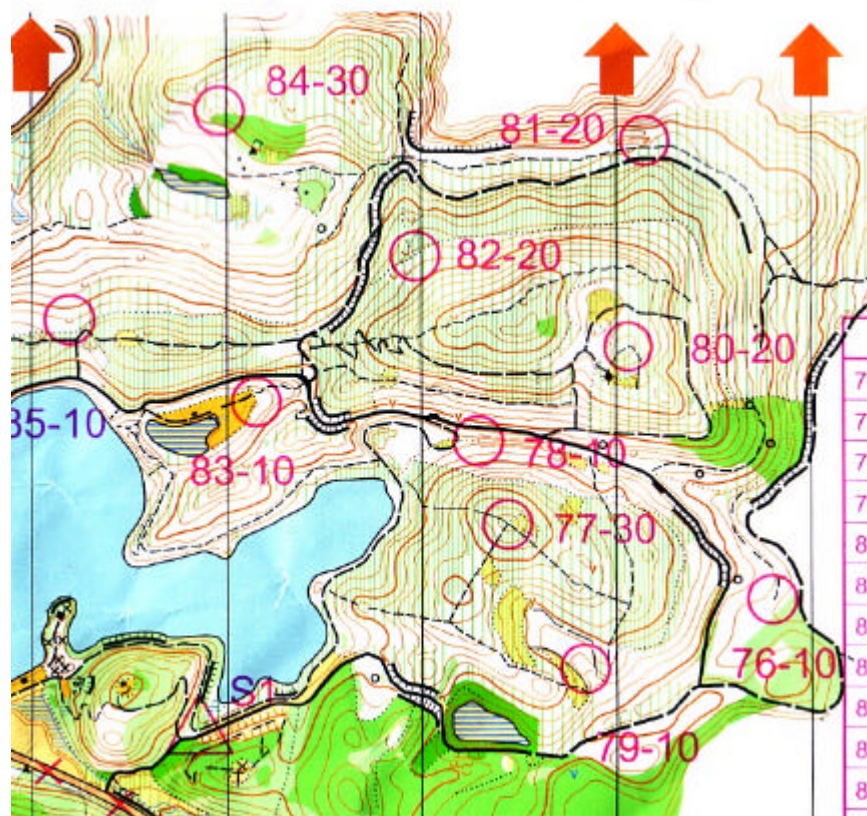
こと。

さくらんぼの誘惑スコアO

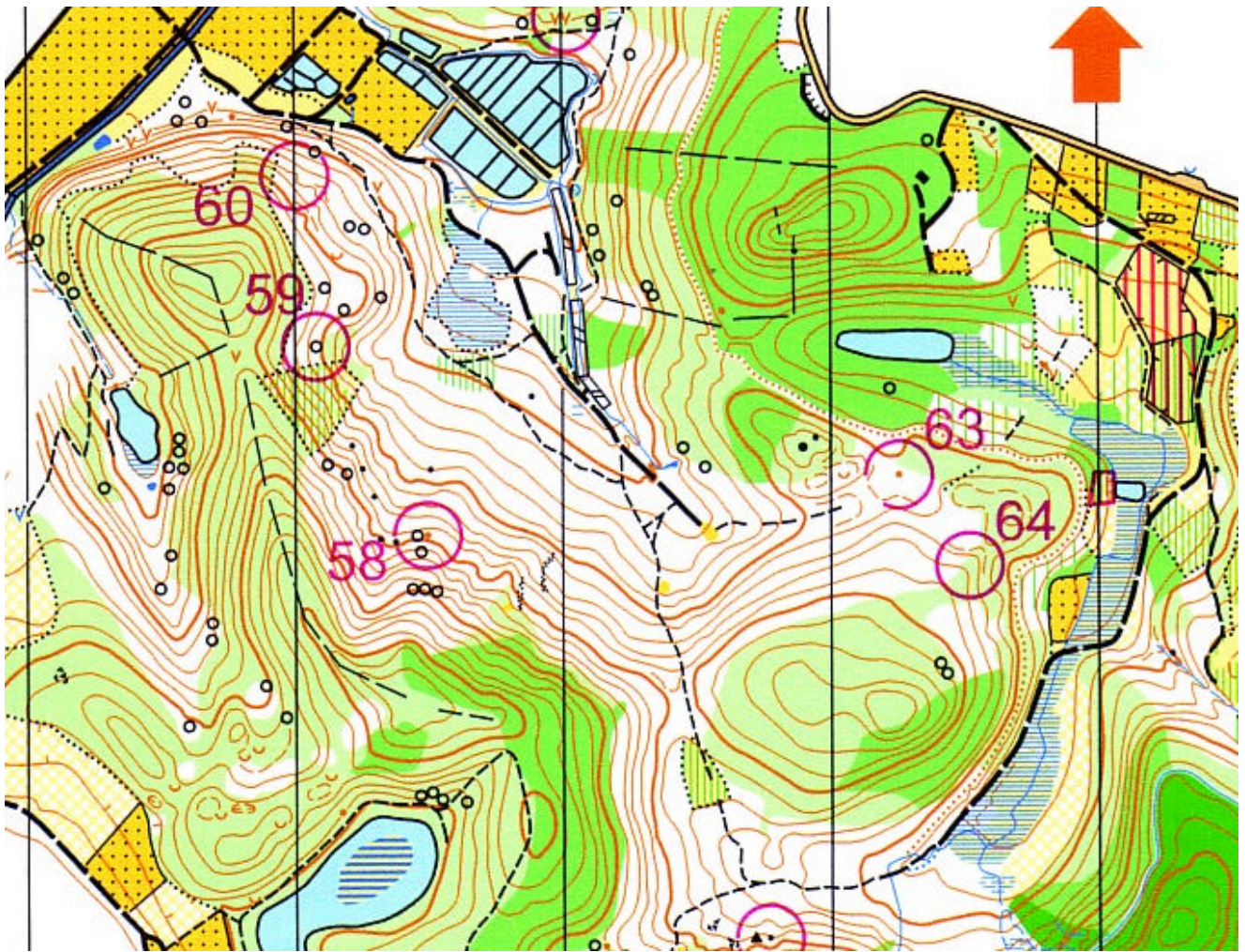
続いてスコアO。昨年使われた範囲に
コントロールが設置されましたが、
急峻な山間を利用した北側、比較的
平坦な南側とコンセプトが異な
っており、なかなか悩ませてくれ
ました。この日自分はM21A全
体で4位に着け、後1人蹴落と
せばさくらんぼがもらえる(さ
くらんぼの行方は1日目スコア
+2日目ロングの総合成績)と
当初全く考えていなかったさくら
んぼ獲得の野望ににわかに燃え
あがることになりました。

新規範囲でロングO

6月20日(日)は新規範囲を利用
したロングディスタンス競技で
した。心配されていた雨も、それ
ほど降らず、比較的快適な環境
でレースが行われました。今年
はMEが設定され、コースも昨
年に比べるとかなりタフな設
定。M21Aでも昨年の6km強
を上回る7.7km。試合展開も
各クラスロングらしい展開に
なりました。



競技者により攻め方が異なったスコアO北側部分。貴方ならどう攻める!?



O-map「沼の森」で特徴的な「特徴の少ない」斜面。地図の精度も大幅に向上。

さすが多摩 OL 町井さんを筆頭とする少数精鋭で作成された地図だけあって、競技中全く不満を感じさせず、快適にオリエンテーリングが出来ました（体力無くてヘロヘロになった以外は）。ただ、コースは道をつなぐ「アタック」といった課題が多く、昨年のようなロング主体の豪快なナビゲーションを期待していた自分としては、プランナーにはもう少し勉強して欲しいな、と正直なところ少し感じました。とは言っても、特徴の少ない斜面をナビゲーションする、というこのトレインならではの課題は相変わらず健在で、その点は大いに楽しめました。

なお、蛇足ですが、この日自分は「順当に」順位を落とし、表彰式後の抽選会とじゃんけん大会でもこれまた予想通りさくらんぼを取り逃し、さくらんぼの野望は一夜の夢に終わりました、ああ...（抽選って当たらない人はとことん当たらないものなんだよなあ...）。

素晴らしい大会に参加しよう

今年は昨年に比べ参加者が少なく、全体的にスケールダウンした感じがして昨年運営に関わった身としては少しさびしくなりました。提供される競技環境は大学クラブ大会など一般的な大会に比してかなり上質であり、賞品抜きにしても十分参加する価値があります。今年もパンチフリーコントロールを採用するなど、意欲的な取り組みも行っております。他の大会の手本にもなる優れた大会がこのような注目されずに放置されているのはかなり残念な気がします。

かつては「後進」の代名詞だった東北・北海道地区の大会も、近年関係者の努力の成果もあり、関東などのメジャー大会にも比肩する競技性やイベントとしての面白さを持つに至っています。「地方だから」と食わず嫌いはよして一度東北の地へ足を運ばれる事を強く勧めます。地方のトレインは中央の人にとっては道のトレインばかり。近くのトレインに飽きたら是非東北へ！

（米本路憲）